

シンポジウム

病気と芸術

日時:12月10日(金)15:30~18:30

明治大学和泉キャンパス ZOOM配信

パネリスト：発言順



丸川哲史 「現れる身/体に現れる<病>：『細雪』身体不調論」

明治大学政治経済学部及び大学院教養デザイン研究科教授。
一橋大学大学院言語社会研究科にて博士号(学術)を取得。専攻は東アジア思想史・文化論。
著書として『台湾、ポストコロニアルの身体』(青土社)『リージョナリズム』(岩波書店)
『竹内好』(河出書房新社)『思想課題としての現代中国』(平凡社)『魯迅入門』(インスク
リプト)『阿Qの連帯は可能か』(せりか書房)など。

谷川渥 「大正デカダンスとその病」

美学者。東京大学大学院人文科学研究科博士課程修了
著書に『形象と時間』(講談社学術文庫)『美学の逆説』『鏡と皮膚』『肉体の迷宮』(ちくま学芸文庫)
『廃墟の美学』(集英社新書)『図説 だまし絵』(河出書房新社)『芸術をめぐる言葉』(美術出版
社)『美のバロキスム』(武蔵野美術大学出版局)『シュルレアリスムのアメリカ』(みすず書房)
『幻想の花園』(東京書籍)『芸術表層論』(論創社)『文豪たちの西洋美術』(河出書房新社)
『孤独な窃視者の夢想』(月曜社)など。



相馬俊樹 「ロメーン・ブルックス：病魔に憑かれたウェヌスの魅惑」

美術評論家。慶應義塾大学文学部哲学科美学美術史学専攻卒。著書に『アナムネシスの光
芒へ』(芸術新聞社)『エロティック・アートと秘教主義』(エディション・トレヴィル)
『禁断異系の美術館』シリーズ(全3巻、アトリエサード)ほか、訳書にピーター・ウェブ&
ロバート・ショート『死、欲望、人形 評伝ハンス・ベルメール』(国書刊行会)がある。

虎岩直子 「'what was whole' (健全だったもの) が解けていく：
シネイド・モリッシーの病気詩」

明治大学政治経済学部及び大学院教養デザイン研究科教授。東京大学大学院にて修士号取得
(Virginia Woolf論)。英国サセックス大学にてPh.D. 取得(The Idea of Translation in Medbh
McGuckian's Poetry)。専門は現代英語文学。



司会とコメンテーター



中村 隆夫 多摩美術大学教授

上智大学文学部フランス文学科卒業。慶應義塾大学大学院哲学専攻美
学美術史修士号。多摩美術大学教授。著訳書に『象徴主義と世紀末世
界』(東信堂)『ピカソの世紀』(ピエール・カバヌ著、中村訳、
西村書店)『キュヒズム』(フィリップ・クーパー著、中村訳、西村
書店)など。

《聴講について》参加費無料：要申し込み(先着250名)

大学院生・学部生・高校生・一般の方も受講できます。12月6日(月)までに以下のURLに申し込んでください。(先着順)

当選者の方には12月8日(水)までにメールで連絡します。申込先：<https://forms.office.com/r/V2cRh3RVKt>

問い合わせ先：Email：naoko@meiji.ac.jp

後援：明治大学大学院教養デザイン研究科(岩野卓司研究科長挨拶あり)

本シンポジウムはJSPS科研費18K00387の助成を受けたものです。

